

第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日時 平成29年2月17日（金）午前10時から正午
- 2 会場 東京都庁第二本庁舎31階特別会議室22
- 3 出席者 伊東委員（委員長）、出張委員（副委員長）、佐々木委員、森山委員、高橋委員、藤井委員、小林委員、坂田委員、野村委員、上原委員、竹村委員、朝日委員、早川委員、江藤委員、増淵委員

4 議事内容

（1）委員長選出

- ・ 教育監を本委員会の委員長に選出
- ・ 指導部長を本委員会の副委員長に選出

（2）教育公務員特例法等の一部改正について

（3）東京都教員育成協議会の設置について

（4）東京都教員育成協議会における協議事項等について

事務局から資料を説明後、意見交換

○指標策定のスケジュール

- ・ 3月に策定される指針を受け、7月までに東京都の指標を作成し、平成30年の研修に間に合わせるというスケジュールとする。

○協議内容

- ・ 協議内容については、既存の協議会など、在り方検討会や大学と都教育委員会の協議会など、今回の育成協議会との関係性を考える必要がある。

○教育実習

- ・ 教育系大学院の役割として、マネジメントや授業改善に加え、実践力向上が求められ、実習により力を付けることが必要となるため大学院の実習がどうあるべきかを話し合いたい。

○教職課程カリキュラムの校種

- ・ 東京都教育委員会では平成22年度に「小学校教職課程カリキュラム」を策定しているが、小学校に限らず、中学校や高等学校の教員の資質・能力向上及び教育課題への対応についても検討していく必要がある。

○養成段階での実践力育成

- ・ 養成課程では、実践的指導力は実習やインターンシップで高めていく必要がある。学校と大学、区市町村教育委員会との連携を図り、継続性のあるものにしたい。

○養成段階での英語力

- ・ 小学校英語の教科化については、小学校では英語の専門教員はいないのでALTと一緒に進めるなどで対応する必要があるが、教員になる人へのメッセージとして、着任時に備えておいてほしい力を記載すべきである。

○カリキュラムの内容

- ・ 新人育成としてベテラン教員が当たり、保護者対応や教科研究などを教えたりしているが、施策の在り方などにより、既存のもの拡充も期待している。

○人材育成基本方針との関係

- ・ 都の人材育成基本方針との兼ね合いもある。指標作成の際、育成方針の拡充が必要である。

○カリキュラム策定のスケジュール

- ・ 改定案は、量が多く、内容も初任研レベル以上のものであるため、大学生に期待するものとなるようにする必要がある。

○大学生・初任者等の現状について

- ・ 小学校教職課程ハンドブックが配布されているが、学生の実態を踏まえ、若者がどう受け止め、どう使うのかを確認し、自分で学べるような形を探り提供すべきである。

○カリキュラム改定案の構成

- ・ 大学や学生が使いやすいように、アクティブ・ラーニングやICT、英語教育など手段や学び方など、項目についてそろえる必要がある。